

自治体の課題、現状

- ・中学校の生徒数が1988年の54,362人から37年間で半減しており、部活動の運営においても生徒数減少の影響が大きくなっている。
- ・地域移行の取組の現状は、教員負担の軽減と生徒に適したスポーツ環境の整備を進めるため、令和4年度にガイドラインを策定、令和7年度には21市町村で地域クラブ運営の実証事業を実施している。また、新たに国の部活動改革ガイドライン策定を踏まえ、令和7年度中に「山形県における部活動改革及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン（案）」を策定予定である。
- ・地域展開を進める上での課題は、①受け皿の形態を問わず必要となる指導者の確保（指導者の資質向上や指導者の掘り起こし等）②指導者はもとより、クラブのマネジメントを担う運営者の人材確保 ③クラブ運営業務や施設使用に係る申請等の煩雑さ ④部活動改革の情報不足や誤認識による改革機運の停滞という課題が見えてきたため、令和7年度は①～④の課題解決を目指して事業に取り組んだ。

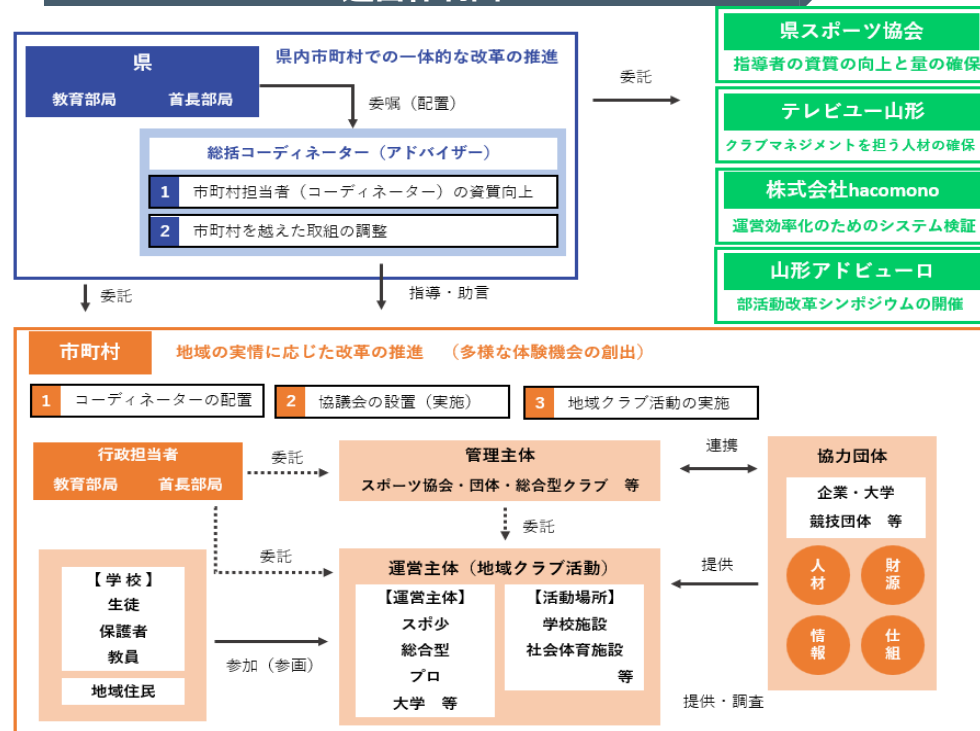
地域クラブ活動等の概要

中学校数	97校	全生徒数	24,639人
域内の部活動数	874部	実施した地域クラブ数	各市町村の成果報告書を参照
全体の指導者数	各市町村の成果報告書を参照	全体の運営スタッフ数	各市町村の成果報告書を参照
主な運営団体	各市町村の成果報告書を参照		
主な種目	各市町村の成果報告書を参照		
平均的な活動回数	各市町村の成果報告書を参照	年間平均参加生徒実数	各市町村の成果報告書を参照
参加会費	各市町村の成果報告書を参照	主な活動場所	各市町村の成果報告書を参照

取組の概要や成果

- ・改革の理解促進を目的に3名の県アドバイザーを配置し、ワークショップや個別相談を実施した。
- ・令和7年度の成果として、全35市町村で部活動の地域展開が進展し、休日の部活動地域展開率は76%となった。（令和6年は57%）
- ・マネジメント人材育成研修会では全6回の開催を通じて125名が受講し、部活動改革の国の動向、クラブ運営の手法、各地域の取組の事例等を学び部活動改革の推進につながった。
- ・部活動改革のシンポジウムでは県内2か所で開催し、650人が参加し、部活動改革の理解度が深まった。また、講演等では、それぞれの専門家より様々な視点で講演していただき、部活動改革の可能性やスポーツ・文化芸術活動の魅力などを伝えることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

活動場所や指導者の確保が困難との指摘が多く、学校体育施設の開放における仕組みづくりや、指導者を確保するための対策案など、検討課題が多いと認識している。また、今後様々な支援策を検討していくことになるが、財源の確保なども大きな課題として考えられている。

令和8年度中の中本格的な地域展開に向けて、地域クラブのあり方やスケジュールなどを明確にしていく。

また、すでに地域クラブで活動している団体の情報の収集を徹底し、市民に情報を発信できるよう取り組んでいく。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	15校	全生徒数	5,663人
域内の部活動数	176部	実施した地域クラブ数	23クラブ
全体の指導者数	87人	全体の運営スタッフ数	16人
主な運営団体	競技団体、地域任意団体		
主な種目	バスケットボール、卓球、剣道、バレーボール、サッカー、陸上、なぎなた、柔道、ソフトボール、水球		
平均的な活動回数	4回/月	参加生徒数	3年：65人 2年：185人 1年：165人
参加会費	500～3,000円/月	主な活動場所	中学校 市有体育施設等

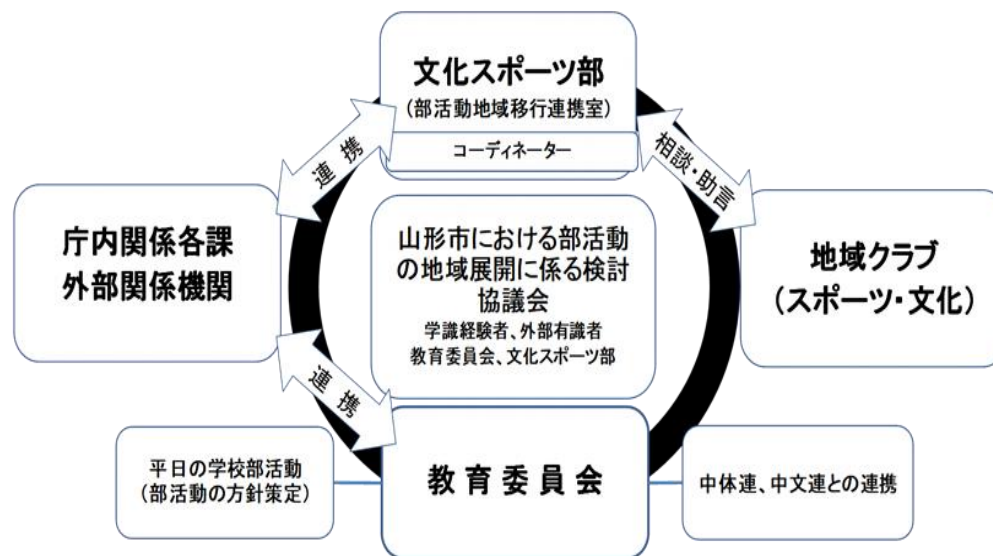
取組の概要や成果

【取組内容】

- 1 「山形市における部活動の地域展開に係る検討協議会」
- 2 コーディネーターの常勤による配置
- 3 四者会議による意見交換
- 4 実証事業の実施
- 5 山形部活動地域展開推進計画の策定

上記の成果と課題を踏まえ、「山形市部活動地域展開推進計画」を令和7年度中に策定予定

運営体制図



自治体の課題、現状

今後少子化が進み、本市の中学生の生徒数は令和8年度は1,834名に対して、10年後の令和18年は1,179名と、655名減少する。

今年度は、12種目において連盟、協会の協力をもとに新たな地域クラブを立ち上げ、実証事業を実施した。課題としては、活動場所の確保をどのようにしていくか、中学校施設や市施設の貸出方法・鍵の貸出方法を簡略化できないか、用具をどのように整備していくか、というハード面についてのものが出された。また、指導者の人員確保をどうするか、費用設定をどのようにし、受益者負担をどの程度にしていくかといった運営面での課題が出された。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	6校	全生徒数	1,880人
域内の部活動数	54部活	実施した地域クラブ数	15クラブ
全体の指導者数	77人	全体の運営スタッフ数	51人
主な運営団体	各種目の連盟・協会及びスポーツ少年団		
主な種目	軟式野球、陸上、ソフトボール、バスケットボール、サッカー、卓球、バレーボール、体操、バドミントン、剣道（連盟・協会が運営団体） フェンシング、少林寺拳法、硬式テニス（スポーツ少年団が運営団体）		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：8人/クラブ
参加会費	500円/月	主な活動場所	市内中学校施設

取組の概要や成果

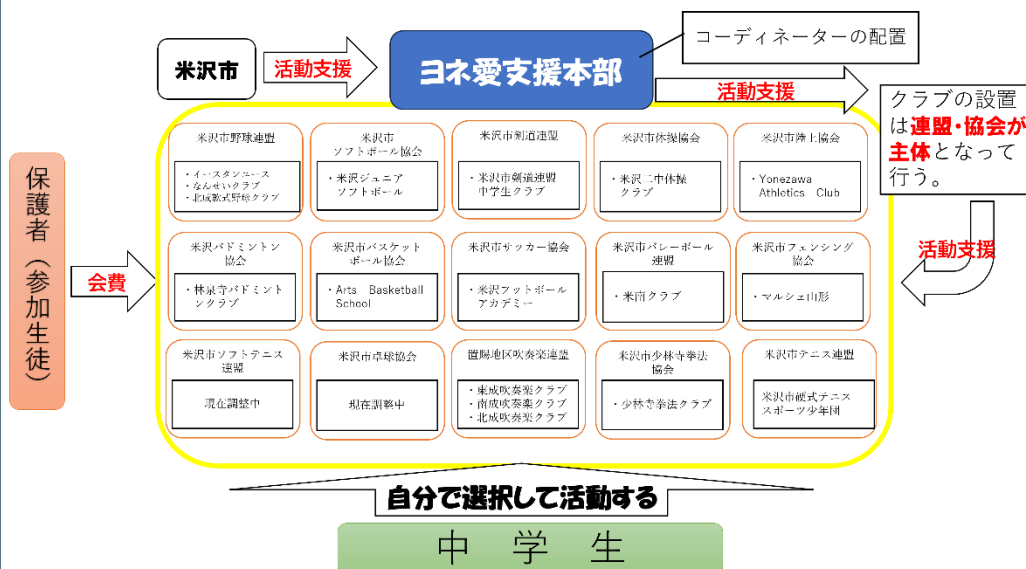
○どの種目においても計画的に生徒の参加意欲を啓発し、活動を行ってもらった。実証事業に、参加していない種目においても検討が進められるようになった。

○実際の生徒の参加状況から適切な規模を検討することができている。

○専門的な指導のみでなく、初心者向けの指導について考案したり、種目を限定しない体力づくり重視の活動をしたりと指導方法に工夫がみられ、生徒たちの満足のいく活動が展開されている。

○学校職員や地域指導者への活動の趣旨などはだいたい浸透している。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市では11校の公立中学校があり、生徒数2,683人で運動部112部が活動している。令和5年度より土日の部活動は地域クラブに移行している。

課題は、土日休日の大会や各事業の地域移行や保護者会クラブに代わる持続可能な地域クラブ活動の体制整備に伴う「①指導者の確保」「②活動場所の確保」「③活動に関する負担」であり、大会運営スタッフの人材不足、地域指導者や保護者にかかる負担の増加、施設や審判の確保などに困難さがある。また、規約に基づく持続可能な運営や指導者への報酬、保険の加入、クラブ運営者（マネジメントできる人材）の財源確保も重要と捉えている。

地域クラブ活動等の概要

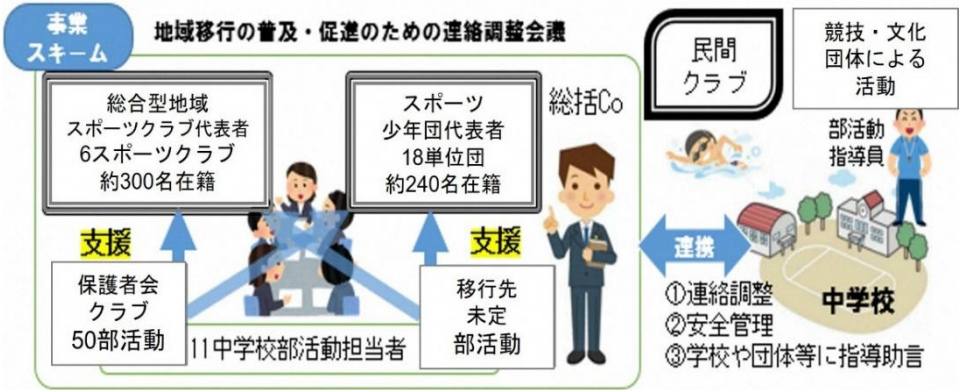
中学校数	11校	全生徒数	2,683人
域内の部活動数	112部	実施した地域クラブ数	113クラブ
全体の指導者数	約200人	全体の運営スタッフ数	約100人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・競技団体や連盟・民間クラブ・保護者会クラブ		
主な種目	中学校体育連盟主催大会の種目		
平均的な活動回数	8回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	約10,000円/年	主な活動場所	市営陸上競技場・武道場・野球場・市内中学校

取組の概要や成果

- 部活動地域移行の普及・促進のための連絡調整会議の開催
8月：保護者会クラブ・指導者・学校関係者対象
①本市の現状説明 ②種目ごとの情報交換
- 部活動地域展開に向けた説明会
10月：吹奏楽部対象
①先行事例の紹介 ②保護者会クラブから地域クラブへの移行説明
1月：保護者会クラブ対象、地域クラブ対象
①本市の現状説明 ②大会参加の仕方 ③地域クラブへの支援
- 保護者会クラブ対象相談会
6クラブへの実施
- 教員の在校等平均時間（4月～6月）

令和4年度	45時間37分
令和5年度	41時間39分
令和6年度	38時間42分
令和7年度	38時間25分

運営体制図



自治体の課題、現状

令和7年度には更に減少し、生徒数は2,062人、部活動数は81部、加入率は52.3%となっている。今後進んでいく少子化への対応として、将来的に市民のスポーツ環境をどう整備していくかということも踏まえ、持続可能な地域スポーツの在り方を考えていく必要がある。

外部指導者についても現在約170名となっているが、種目によって偏りがあり、各クラブに複数体制を敷くためにはまだ不足している。

市内に中学校が7校あるうち、3校については地元の総合型地域スポーツクラブが受け皿となり、地域クラブ活動を行っているが、4校中3校については、10月より任意団体を設立し、地域クラブ活動を始めている。残り1校については令和8年4月よりスタートできるように話し合いを進めている。

財政支援については大きな課題である。

地域クラブ活動等の概要

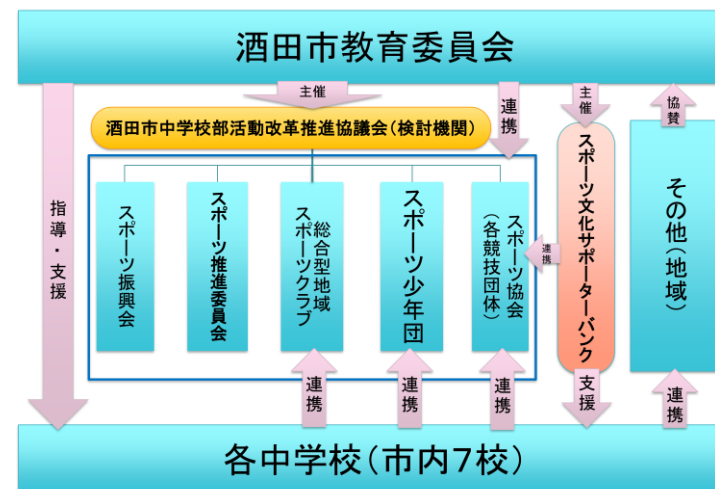
中学校数	7校	全生徒数	2,062人
域内の部活動数	81部	実施した地域クラブ数	70クラブ
全体の指導者数	170人	全体の運営スタッフ数	55人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ、任意団体クラブ		
主な種目	軟式野球、陸上競技、サッカー、バスケットボール、柔道等		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	1,000円～2,000円/月	主な活動場所	学校体育施設

取組の概要や成果

- サポーターセミナーを2回開催した。参加者はどちらも約50名であったが、内容はかなり良いものであると参加者の意見からも評価できる。参加者を増やすために、クラブの認定要件に指導者要件を加え、悉皆となるように検討していく。
- 休日の部活動の受け皿となるクラブがない4つの中学校区については、地域の事情を踏まえ、3つの中学校で1つの任意団体クラブを設立するために話し合いを進めてきたが、令和7年度10月に設立し、クラブ活動として行うことができた。令和8年度から本格実装が期待できる。もう1つの中学校でも令和8年4月からの活動に向けて任意団体クラブの設立に向けて話し合いを進めている。

運営体制図

●運営体制図例（市区町村）



令和8年4月現在

自治体の課題、現状

- ①まだ移行が進められない部活動もあり、令和8年度からの休日の部活動の完全地域移行に向けて、サポートを行っていく必要がある。
- ②現在立ち上がっている地域クラブは1種目に限定された競技力向上、部活動を補完するためのもののみ。競技性を求めない生徒の受け皿の整備を行わないと、スポーツ離れが進んでしまう可能性が高いとの意見もあり、気軽にスポーツを楽しめる場の確保が必要である。
- ③数年先を見据えると、指導者の高齢化による指導者不足や、人口減少により学校ごとのクラブでは部員・会員不足が見込まれ、広域的な連携が必要である。

地域クラブ活動等の概要

中学生の受け入れが可能な団体は「地域クラブ」として登録してもらう登録制としており、活動・運営は各団体で行っている。

（地域クラブの例）

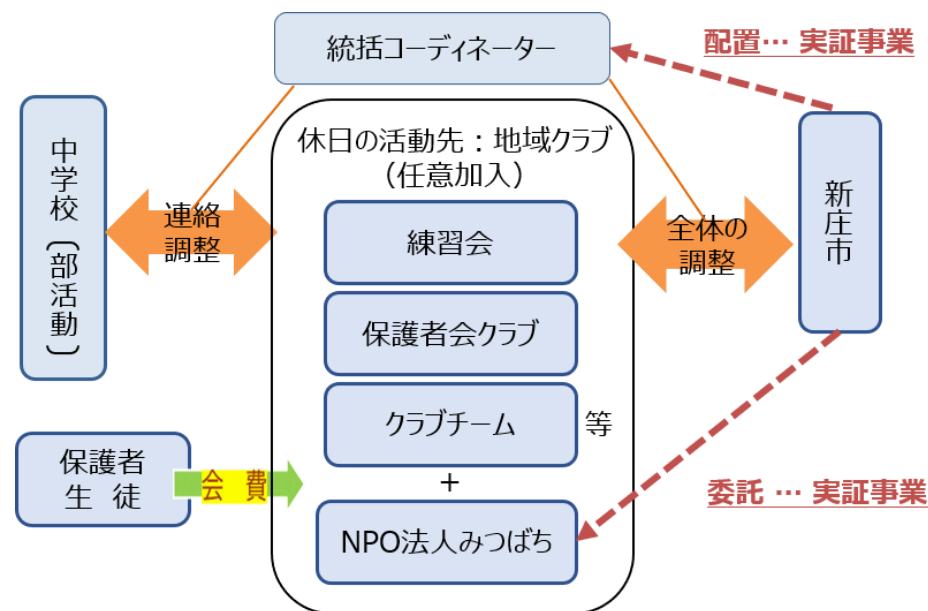
- ・単一種目のスポーツクラブ（クラブチームや部活動の保護者会クラブ等、団体によって運営主体は様々）
- ・スポーツ少年団
- ・企業が運営するスポーツクラブ

中学校数	5校（うち2校が義務教育学校）	全生徒数	776人
域内の部活動数	46部	市に登録している地域クラブ数	28クラブ
主な種目	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、サッカー、卓球、剣道、柔道、硬式野球、軟式野球、ソフトテニス、陸上 等		

取組の概要や成果

- ①休日の部活動地域移行の統括コーディネーターを1名配置し、令和8年度からの休日の部活動の完全地域移行に向けて、関係団体との連携調整等を行い、体制整備を図った。
- ②NPO法人が運営するスポーツクラブへ、競技性を求めない複数種目の地域クラブの運営を委託した。
- ③指導者不足解消のための取組として、高校生を指導者として育成する実証を地域スポーツクラブへ委託して行った。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 全国的な少子化の進展、市内の生徒数の減少、学級数減による教員数の減少、そのような要因の重なりによって市内中学校の部活動数が減少している。これまでのような部活動の持続は困難になっている。
- 寒河江市の中学校では、令和7年7月以降は、休日の学校部活動は行っていない。学校部活動の地域展開に関り、15種目のうち9種目で休日の活動を行い、休日の生徒の活動の場所を確保することができた。
- 保護者や関係団体の関係者に対して、部活動の地域展開の意義や方針について、今後も周知を図っていく必要がある。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	1,082人
域内の部活動数	33部	実施した地域クラブ数	10クラブ
全体の指導者数	38人	全体の運営スタッフ数	12人
主な運営団体	市内競技連盟、市内スポーツ少年団、民間地域クラブ		
主な種目	軟式野球、卓球、剣道、ソフトテニス、バスケットボール、ソフトボール、柔道、陸上、空手、スポーツクライミング		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	10,000円/年	主な活動場所	陵東中学校 陵南中学校 等

取組の概要や成果

- 部活動改革検討委員会（4回）
- 部活動改革に関わる検討会議（5回）
- 指導者等研修会（2回）
- 部活動総括コーディネーターの配置
- 地域クラブ運営についての委託事業（10クラブ）
- 西村山地区部活動改革協議会の開催（3回）

運営体制図

休日の地域クラブ活動等の運営主体決定までの体制整備



自治体の課題、現状

本市は、少子化による人口減の影響を受け、児童生徒数の減少が著しく進行している。部活動における、任意加入が2年目となり、運動部への所属は減少している。人口減の影響は、個人競技では少ないが、団体競技には大である。休日に活動したい中学生がたくさんいる意識調査もあり、現状を打開する必要に迫られている。

10月より、これまでのモデルクラブを核にして、地域クラブの承認を実施し、試験的に地域クラブの活動を開始する。また、地域クラブを統括し、事務の効率化などを検証する、運営団体の設立を見込む。

地域クラブ活動等の概要

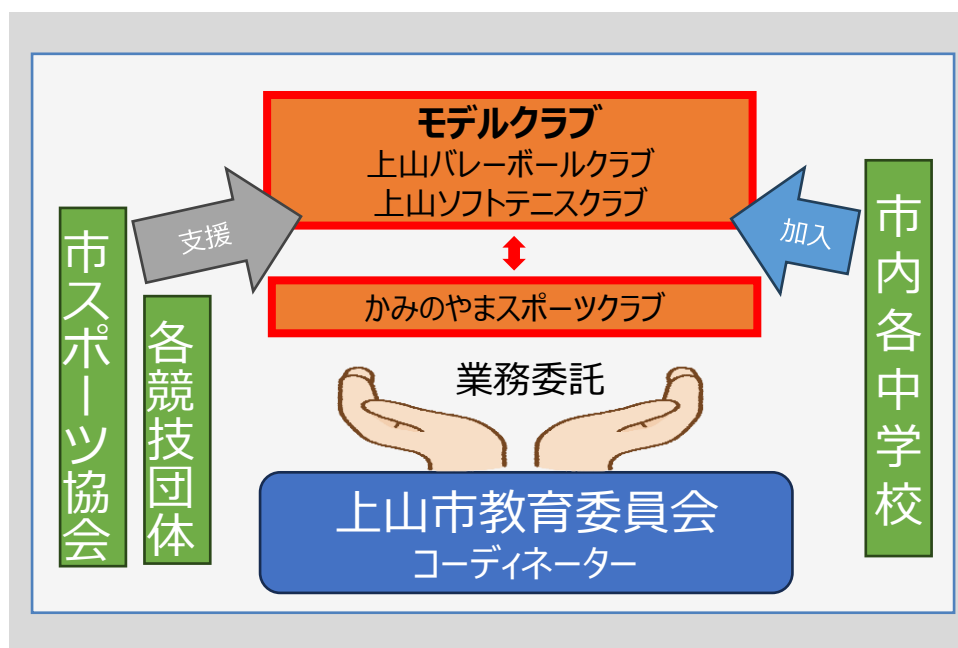
中学校数	4校	全生徒数	574人
域内の部活動数	23部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	9人
主な運営団体	上山バレーボールクラブ、上山ソフトテニスクラブ、かみのやまスポーツクラブ		
主な種目	バレーボール、ソフトテニス、マルチスポーツ・クラブ運営		
平均的な活動回数	休日 4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：12人/クラブ 1年：11人/クラブ
参加会費	平均1,250円/月	主な活動場所	南部体育館 体文センターテニスコート

取組の概要や成果

過去3年間のモデル事業で指定した6クラブを礎にして、市の設立支援の下、10月より地域クラブを市独自で承認できた。モデルクラブとして上山バレーボールクラブ、上山ソフトテニスクラブ、かみのやまスポーツクラブが実証事業に参加し、部活動地域展開のあるべき姿を標榜しながら実証的に活動できた。

運営団体として、非営利活動法人かみのやまスポーツクラブを主体とした、「部活動サポートかみのやま」を立ち上げた。市の支援の下、9月まではモデル事業として運営準備を行い、10月からは市の委託事業として実証的な活動に取り組んだ。1月に認定地域クラブ設立ガイドラインを策定し、令和8年度よりの認定地域クラブと認定運営クラブ設立の準備を整えた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 令和6年度より「任意加入制」実施。現在は約8割が部活動に所属し、そのうちほとんどの生徒が、地域クラブでの活動に参加している。
- 地域展開を実施できる体制が整った種目からパイロット実施を進め、中体連大会出場を申請した団体が複数ある。（5種目5団体）
- 昨年度に引き続き、生徒及び保護者の「地域展開」に関する理解を深めていく必要がある。（部活動と地域クラブ活動の違い、生徒が自分の活動を自分自身が選択できる（していく）という意識の醸成等）
- 大会出場の所属先での活動に依存した（学校部活動の補完）傾向が強く、学校区によらない地域クラブは少ない現状である。
- 部活動以外の種目にチャレンジできる機会の保障が昨年度に引き続き課題である。

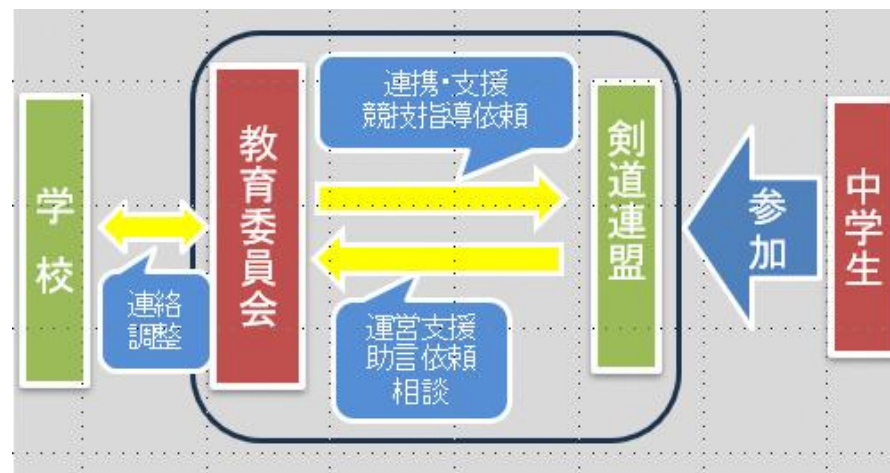
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	443人
域内の部活動数	15部	実施した地域クラブ数	16クラブ
全体の指導者数	55人	全体の運営スタッフ数	18人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団 など		
主な種目	新体操、バレーボール、サッカー、陸上、剣道 など		
平均的な活動回数	8回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：4人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	1,500円/月	主な活動場所	市内教育施設

取組の概要や成果

- 先進自治体視察や、指導者講習会の開催による受け皿団体や指導者への自治体としてのアプローチを検証し、持続可能な取組を目指した。
- 種目ごとの関係者（保護者・競技団体・学校）での検討会の中で、地域展開のイメージや市としての方針、クラブ要件を共有することができた。おかげでスムーズなマッチングやガイドラインを意識した活動につながっている。
- 学校区によらない地域クラブ活動の立ち上げや、持続可能な運営について、団体との連携を図り、推進することができた。
- 新入生及び保護者への情報発信については、休日部活動の地域展開完全実施に向けて、より具体的な情報を収集し発信することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

1 生徒の少子化の加速と指導者の確保

- 年々生徒数の減少が加速していくことと指導者の確保をセットで考え、生徒が望むスポーツ環境をいかに整備していくことができるか。

2 合同部活動の推進で、生徒のスポーツ環境の維持

- 本市だけでなく、近隣町との合同部活動の想定が今後必要か。

3 生徒にとって望ましい、選択肢のあるスポーツ環境の整備

- 強化活動、エンジョイ活動等、様々な形態のスポーツ環境を創出できるか。

4 部活動を補完する地域クラブの推進

- 「地域の子供は地域で育てる」理念のもと、生徒の周囲の大人が生徒の望むスポーツ環境を協働で創出できるか。

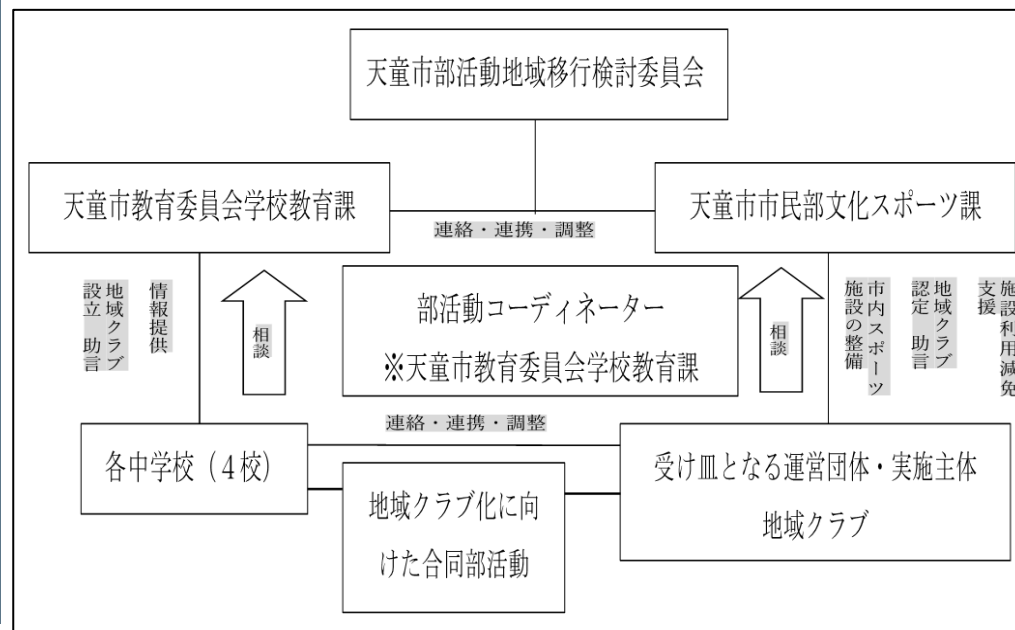
地域クラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	1,556人
域内の部活動数	46部	実施した地域クラブ数	31クラブ
全体の指導者数	109人	全体の運営スタッフ数	140人
主な運営団体	天童市教育委員会		
主な種目	サッカー競技		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年： 0人/クラブ 2年： 15人/クラブ 1年： 5人/クラブ
参加会費	300円/月 (令和7年度のみ)	主な活動場所	天童市立第二中学校グラウンド

取組の概要や成果

- 部活動地域展開の概要や地域クラブ化に向けた合同部活動の取組み等についての説明を関係者へ延べ10回実施した。特に、サッカー地域クラブの立ち上げについては、市教委と指導陣、協会、保護者等と協議を行い、創設することができた。
- 部活動地域移行検討委員会を9月と1月に開催し、進捗を共有することができた。
- アンケート調査は、計画通りに実施し、サッカー部の団員とその保護者へも行い、部活動改革の進捗状況を把握する資料として、活用することができた。
- 指導者研修会を開催し、これまでの「教え込みの指導」から「コーチングマインド」の指導法の重要性とらえ、生徒を主軸にした指導の在り方等を研修した。

運営体制図



自治体の課題、現状

【現状】

市の人口減少とともに中学校生徒数も減少傾向にあり、令和10年度279人、令和13年度には221人まで減少する見込みであり、令和8年度には2校の中学校が統合し1校となる。

令和6年度から部活動の任意加入制度を導入し、生徒の活動の選択肢を広げ、やりたい活動への挑戦を支援するため「尾花沢市学校部活動の地域連携・地域移行支援協議会」を設立し、休日活動の支援体制整備を図っている。

【課題】

- ① 指導者謝金も含め、運営費など保護者負担の急増
- ② 活動の運営が学校から離れたことによる部活動の意義の喪失（勝利優先主義）
- ③ 生徒の交通支援

地域クラブ活動等の概要

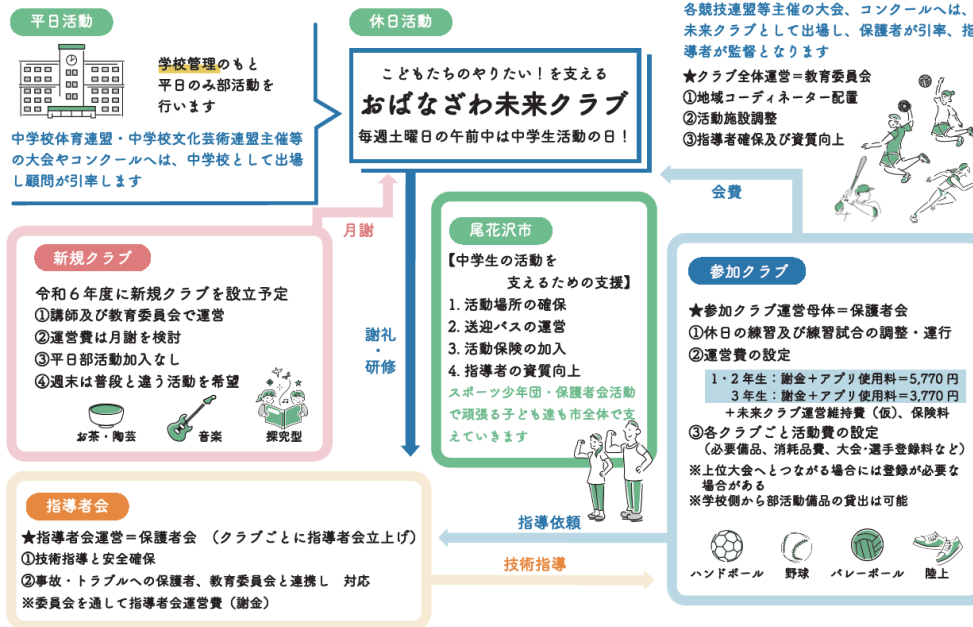
中学校数	2校	全生徒数	290人
域内の部活動数	12部	実施した地域クラブ数	13クラブ
全体の指導者数	44人	全体の運営スタッフ数	45人
主な運営団体	①教育委員会 ②スポーツ少年団 ③保護者運営団体 ④クラブチーム		
主な種目	陸上、バレーボール、野球、ハンドボール、剣道、サッカー、スキー、卓球、柔道、バスケットボール、男子バレーボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	5,000円/月 各団体で設定	主な活動場所	公共施設

取組の概要や成果

- ① コミュニケーションツールを導入し、様々な形態で活動する団体に対し行政からの情報提供等が可能となった。特に活動場所や活動時間帯などが把握可能となり、状況がわかりやすくなった。
- ② 交通支援として、スクールバスの運行を行ったが活動の中止や変更の連絡が徹底されなかったり、バス運行管理の業務煩雑であったことから、連絡ツールを導入した。
- ③ 5月に消防本部で、生徒の活動中の安全確保について指導者研修を行った。指導者のほか保護者、生徒も参加したが、指導者の参加率が芳しくなかったことから、競技ごとのスポーツ教室を開催し、専門的技術指導について、またメンタルについてもプロに学ぶ機会を設けた。

運営体制図

尾花沢市 令和6年度からの中学生の活動



自治体の課題、現状

生徒数の減少に伴い、希望する部活動が休部・廃部により設置されていない学校や、部員不足で合同チームで大会参加する部が増加傾向にある。

令和5年度より検討委員会を設置し、7年度までの3年間で、生徒が自由に活動を選択できる環境を整備し、選択の一つとして地域スポーツ・文化芸術活動の場を確保するべく取組を推進している。そのため、運営団体として、実施主体を総括する事務局の設置を計画している。

スポーツクラブの運営に係る経費や簡略化された運営システムの構築、施設使用に係る調整等が課題となっている。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	715人
域内の部活動数	38部	実施した地域クラブ数	11クラブ
全体の指導者数	61人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	南陽市スポーツ協会・南陽市教育委員会		
主な種目	野球・サッカー・テニス・バレーボール・剣道・柔道 等		
平均的な活動回数	8回/月程度	年間平均参加生徒実数	20人/クラブ
平均的な参加会費	1,000 円/月程度	主な活動場所	市内公共施設 学校施設

取組の概要や成果

- 地域クラブをモデル種目として認定して受け皿の拡大を図っている。持続可能なクラブとなるように、課題解決のために支援してきたが、**各競技団体の連携の元、受け皿となる地域クラブが年々増加している。**
- システム（アプリ）の導入により、運営団体と実施主体の報告や連絡がスムーズになり、運営の簡素化に一躍かうことが期待されている。
- モデル種目に、カローリングやコンディショニングなど、これまで種目が限定されていた学校部活動とは違い、**生徒の志向に合わせた活動が部活動との組み合わせで活動可能な状況にある。**

運営体制図

